



4 本県の水産業のすがた

水産業の概要

本県の嶺北地域の沿岸から沖合は起伏に富み、玄達瀬、松出シ瀬など多くの天然礁が点在しています。一方、嶺南地域は変化に富んだリアス式海岸で、沿岸から沖合にかけて緩やかな大陸棚が広がっています。

こうした恵まれた海域環境の中で、定置網、底曳網、刺網、釣り等の漁業やトラフグ、マダイ等の養殖業が営まれ、全国で唯一、皇室へ献上している越前がにをはじめ、若狭かれい、若狭ふぐ、日本三大珍味のひとつである越前雲丹など、多くの特産品があります。

【本県水産業の全国に占める地位(平成25年)】

項目	単位	福井県	全国*	順位
海面漁業経営体数	経営体	1,012	94,507	30
海面漁業就業者数	人	1,735	180,985	29
海面漁業	生産量	トン	3,733,824	34
	生産額	百万円	947,800	29
海面養殖業	生産量	トン	997,097	33
	生産額	百万円	406,384	29
漁船隻数	隻	1,498	152,998	30
内水面漁業生産量	トン	58	-	-
内水面養殖業生産量	トン	17	30,496	39

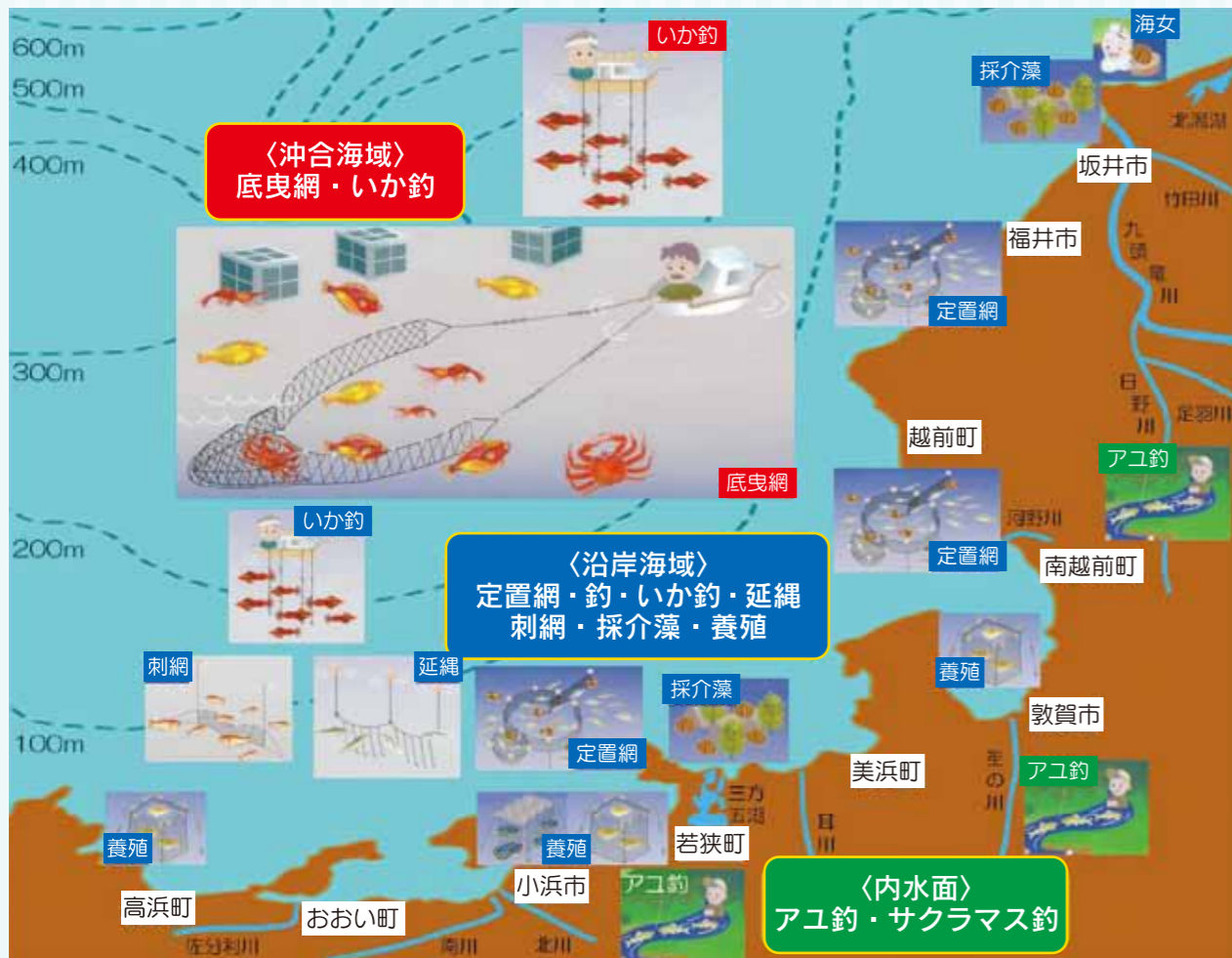
※沿海40都道府県の合計(内水面は47都道府県)

【魚種別漁獲量の順位(平成25年)】

順位	魚種名	福井県(トン)	全国(トン)	順位
1	さわら類	2,635	16,486	1
2	ぶり類	2,422	118,556	14
3	するめいか	1,597	180,379	12
4	かれい類	1,565	45,859	6
5	あじ類	604	175,430	28
6	ずわいがに	548	4,181	3
7	たこ類	260	33,700	21
8	すずき類	146	7,801	16
9	さば類	144	385,532	31
10	はたはた	141	6,809	9

内水面漁業生産量は水産課資料、その他は農林水産省統計

【本県漁業の操業イメージ図】

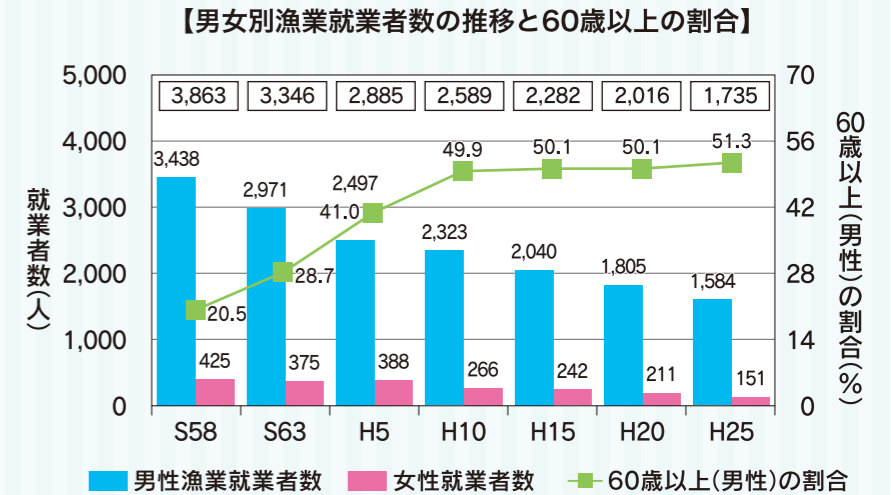


つくり育てる漁業

① 漁業の担い手の動向

平成25年の漁業就業者数は1,735人となり、統計が残る昭和38年(5,001人)以降、減少傾向にあります。

また、平成10年以降、漁業就業者(男性)の約半数が60歳を超えています。

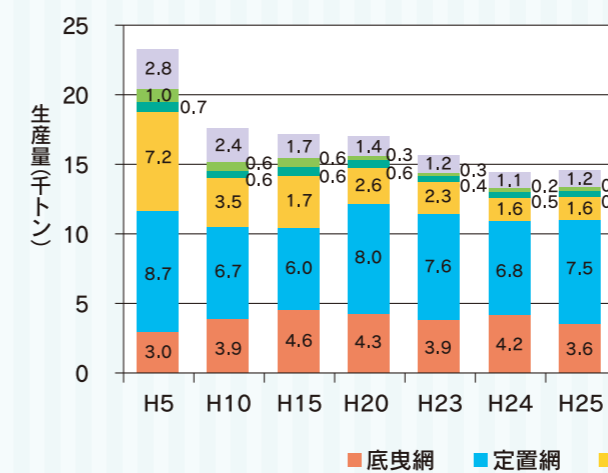


② 漁業生産の動向

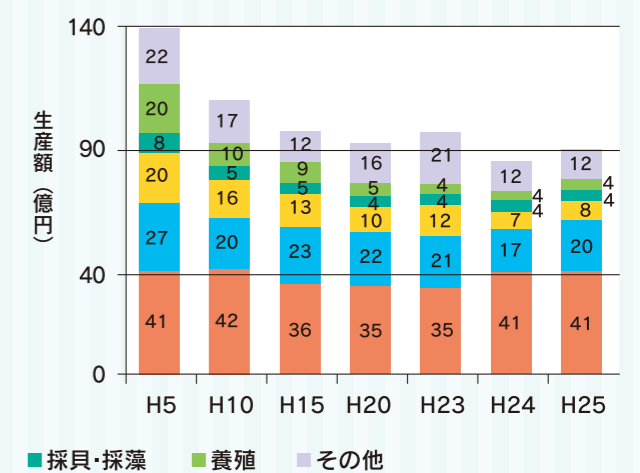
生産量、生産額とも昭和49年の46,754トン、昭和57年の187億円をピークに減少傾向にあり、近年は、約1万5千トン、90億円程度で推移しています。

平成25年の生産量と生産額は、14,613トンで90億円となり、底曳網と定置網で全体の約7割を占めています。

【漁業種類別生産量の推移】



【漁業種類別生産額の推移】



③ つくり育てる漁業

効率的かつ効果的な「越前がに」の保護対策と海底耕耘による「越前がれい」や「甘えび」などの生息環境の保全を進めます。

また、トラウトサーモンやマハタなどの新魚種の養殖を開始するとともに、「若狭ふぐ」や「若狭のかき」については、新技術を導入します。

さらに、アワビ、パフンウニなどの種苗放流や、藻場造成、岩盤清掃による生息環境の保全を進めます。



越前がに

養殖新魚種「マハタ」

養殖新技術(カキの籠養殖)

藻場造成



ふくい水産カレッジの開設

漁業就業者を確保するため、新規就業に必要な知識や技能を学ぶことができる『ふくい水産カレッジ』を平成27年6月に開設しました。ふくい水産カレッジには、3つのコース（漁船漁業、海女、養殖）があり、漁業実習と座学研修を行っています。



トラウトサーモン

平成27年度から県内数箇所です本格的に養殖を開始し、新たなブランド品としてPRしていきます。大型生簀を用いた海面でのトラウトサーモン養殖は、日本海側では初めての取り組みです



越前がにのブランド力強化

県の魚に指定されている「越前がに」は、日本で唯一、皇室に献上されている極上のブランド品として有名です。平成27年度から、その「越前がに」のうち、一定条件（重さが1.3kg以上、甲羅の幅が14.5cm以上、爪の幅が3cm以上）を満たす極上品を『極』として販売します。『極』は1年に500尾程度（年間漁獲の0.5%未満）しか漁獲されないプレミアム品です。



水産加工施設の整備

大漁時の魚価の値崩れを防ぐための買い支えと未利用魚の有効活用を目的に、福井県漁業協同組合連合会が水産加工施設を整備しました。加工施設（平成28年5月稼働）では、地魚の一次加工品を製造し、学校給食や県内外の量販店・飲食店に販売していきます。



地魚の魚食普及

本県では、平成22年度から特産水産物の食べ方や味を覚えてもらい、魚食への関心を高めることを目的に、県内の全中学校3年生を対象に、茹でたセイコガニの食べ方講座を実施しています。



漁港

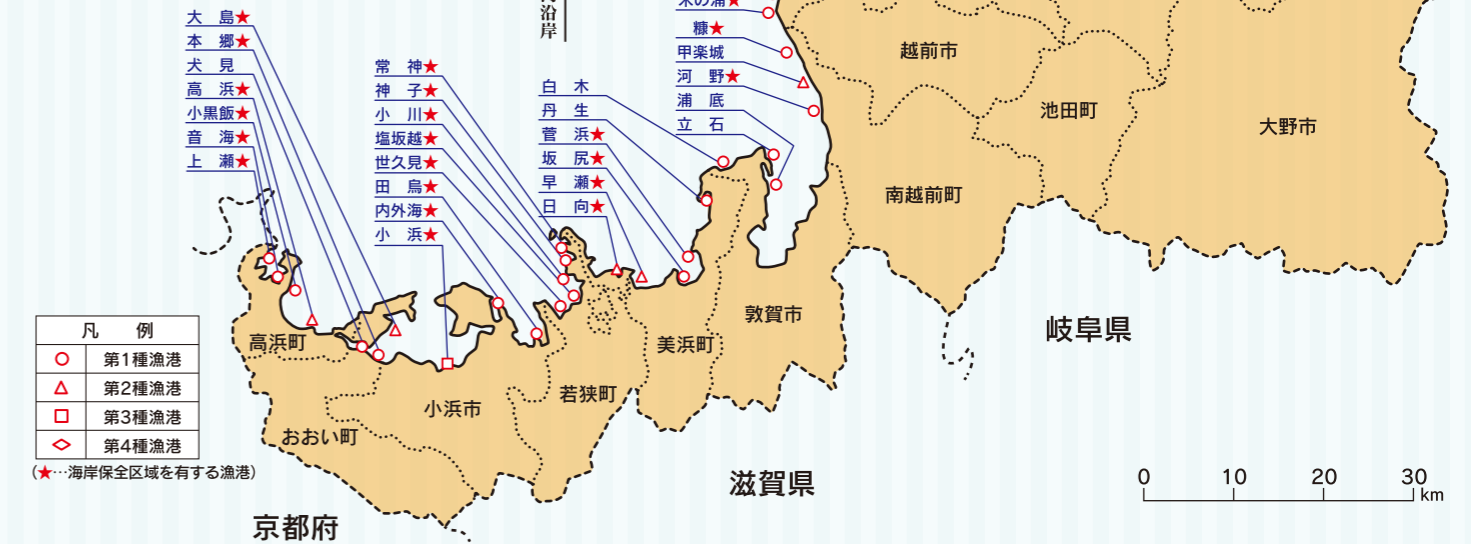
本県には45の漁港があり、第1種が35漁港で全体の78%を占め、第2種が8漁港、第3種と第4種が1漁港ずつとなっています。

第1種漁港…利用範囲が地元の漁業を主とするもの
 第2種漁港…利用範囲が第1種漁港よりも広く、第3種漁港に属さないもの
 第3種漁港…利用範囲が全国的なもの
 第4種漁港…離島その他周辺にあって、漁場の開発または漁船の避難上、特に必要なもの

福井県における漁港

種別	数	漁港名
第1種漁港	35	はまきか、かじ、さき、あんたう、ながはし、すごう、あゆかわ、浜坂、榎、崎、安島、長橋、菅生、鮎川、大丹生、大味、居倉、左右、玉川、茂原、白浜（城崎）、米の浦、糠、河野、浦底、立石、白木、丹生、菅浜、坂尻、常神、神子、小川、塩坂越、世久見、田島、内外海、本郷、大見、小黒飯、音海、上瀬
第2種漁港	8	◎鷹巣、◎白浜（国見）、◎柴崎、◎甲楽城、◎早瀬、◎日向、◎大島、◎高浜
第3種漁港	1	◎小浜
第4種漁港	1	◎越前
計	45	

◎：県管理漁港



漁港位置図



漁港の老朽化・災害対策

現在、漁港施設の10%が建設後50年以上を経過し、20年後には半数に達する見込みです。今後、急速な老朽化により、維持更新費用が急増する恐れがあるため、施設の長寿命化対策を推進していきます。併せて、地震や津波、波浪への備えとして、堤防の嵩上げなど漁港機能の強化を推進していきます。



漁港の機能強化（嵩上げと腹付け）（越前漁港）



越前がにの水揚げ（越前漁港）